



第8回POLISHセミナー 共催：第一三共株式会社

～製薬企業ってどんなところ? 未来を創るあなたの一步への応援と期待～

2025年4月12日（土）、第8回POLISHセミナーをオンラインで開催し、約60名の学生・研究者の皆様にご参加いただきました。今回は、第一三共株式会社の皆様にご協力いただき、製薬企業で求められる力や、学生時代の過ごし方について、第一線で活躍されている方々からご講演いただきました。

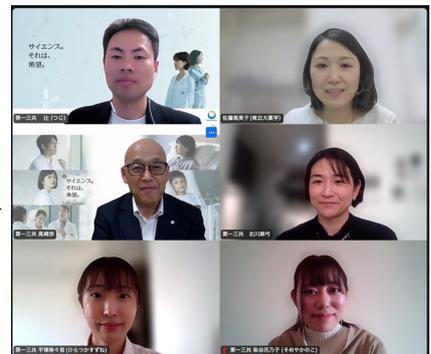
第1部：講演

講師の皆様は、東北大学薬学部・生命科学研究科などの出身で、修士課程や博士課程を経て現在は研究員・マネージャーとしてご活躍中です。研究所長の北川様からは、「アカデミアと企業研究の違い」について、実際のキャリア経験をもとにした具体的なお話を伺うことができました。アカデミアでは科学の解明そのものを目的とする一方、企業では「人類の健康に貢献する」という出発点から新薬の種を見つけ、実際の医薬品へと育てていくという視点が強調されました。

また、人事部の辻様からは企業理念や強み（抗体医薬・がん領域など）、福利厚生、そして就職活動で企業を選ぶ際に注目すべきポイントなどをご紹介いただきました。講師の皆様からは、研究職として企業で働くやりがいや、異なる部署・専門性をもった人たちと協力しながら進めるチームワークの魅力、また修士・博士のそれぞれに求められる姿勢の違いなど、実体験に基づくリアルなお話を伺うことができ、参加者の進路選択に対する視野を広げる貴重な機会となりました。

第2部：座談会

後半は参加者が少人数のブレイクアウトルームに分かれ、講師の方々と直接お話しできる時間を設けました。どのルームでも非常に活発な質疑応答が行われ、参加者の関心の高さと真剣な姿勢が伝わってきました。研究と開発の違いや、就活準備の進め方、企業での具体的な業務内容など、個別に聞きにくいことにも丁寧にお答えいただき、参加者にとって大変有意義な時間となりました。



セミナー後アンケートの質問に対する講師からのご回答

新卒採用時には博士卒の方がプラス?

基本的には、見方はほとんど違いありません。修士、博士ともに研究遂行能力を主にみさせていただいております。ただ、博士の方には、これまでの研究経験を踏まえて、自分で研究を推進できるかどうか、も加えて選考させてもらっております

研究職に必要な知識、今からできる勉強など

修士・博士における研究に邁進し、専門性を磨くこと、試行錯誤による論理的思考の確立が一番大事です。さらに、ご自身の研究だけではなく、研究室内や学部内など周りでどういう研究がされているかを知る機会があれば、積極的に参加しアンテナを張る習慣が身につくとなお良いと思います

企業の方は修士卒と博士卒で求めるものに違いはありますでしょうか

大きな違いは入社時から独立した研究リーダーになるまでの期間だと思えます。博士卒の方は、入社後1～2年で研究テーマ発案・リードとなる場合が多いのに対し、修士卒の方は3～4年程度要するのが平均です。が、人それぞれで、修士卒でも2年目でテーマリーダーを務める方もいます。その後の仕事内容は同一で、個人の力量・適性次第です。また、配属部署によってもテーマの状況が異なりますので、年数はあくまで参考値です

研究以外で製薬会社の就職に向けて経験しておくべきことは?

特にありませんが、製薬会社の提供している説明会や座談会、インターンなどに参加してみるのも良いかと思えます

いつ頃研究の専攻を本格的に決めたのか

人それぞれだと思います。早い方は中高生のころから、遅い方は就活してみても決める方もいらっしゃるかと聞いています

※ 紙面の都合上、一部編集して掲載しています

POLISHの活動について、皆様からのご意見・ご要望・ご感想などをぜひお寄せください

発行・編集：東北大学大学院薬学研究科
女性薬学研究者育成チーム POLISH

polish@mail.pharm.tohoku.ac.jp（事務局 佐藤由紀）